

## Living Cameos and an Animated Greek Vase.

PHOTOGRAPHS BY "CAMERIA ILLUSTRE" SETTING BY "THE SKETCH."



A PART THAT WAS THE CAUSE OF POLEMICS IN PARIS: NIJINSKY AS THE FAUN  
IN "L'APRES-MIDI D'UN FAUNE."

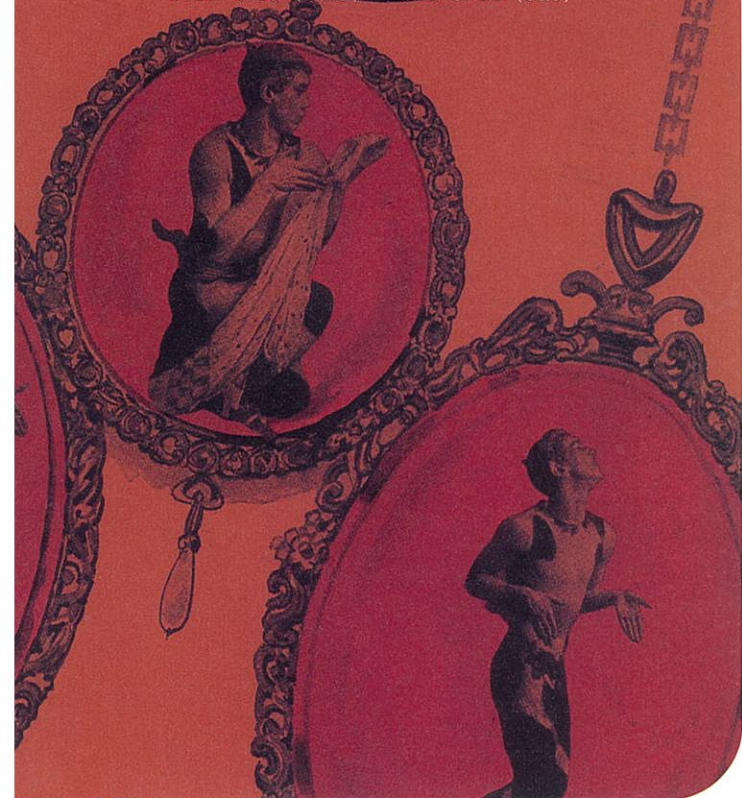
At the first production of "L'Après-Midi d'un Faune," at the Claret Theatre in Paris, some objection was raised to certain gestures adopted by M. Nijinsky. After the first performance, however, the gestures which caused comment were at once modified, and it is to much to be hoped, the charming little "pantomime" is produced at Covent Garden, there will, of course, be nothing that is in the slightest degree questionable. It will be seen that M. Nijinsky wears peculiar pinstriped tights, with leaves for ornaments.

## Kenji Usui Ballet Collection

Vaslav Nijinsky

~ Glory and setbacks ~

2011/4/19 (Tue.) ~ 2011/5/14 (Sat.)



## Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション

2011 企画展

ワツラフ・ニジンスキー

~ 栄光と挫折 ~

2011/4/19 (Tue.) ~ 2011/5/14 (Sat.)

## 次回予告

バビレの居たバレエ団

~ シャンゼリゼ・バレエ団、

ケヴァス侯のバレエ団、パリ・オペラ座 ~

The company where Jean Babilee danced

~ Ballet de Champs-Elysee,

Ballet de Marquis de Quevas, Opera de Paris ~

ローラン・プティは日本でも大変有名な振付家ですが、彼の代表作「若者と死」の名演でも知られるジャン・バビレに焦点をあててご紹介します。プティが若い頃に自ら立ち上げた最初のバレエ団バレエ・ド・シャンゼリゼからパリ・オペラ座まで。あまり顧みられることのないバレエ団を含めてバビレの足跡に沿って、ご紹介したいと思います。

(期間：2011/5/18 ~ 6/12 於：2階メインエントランス)

◎ 企画・監修

芳賀直子(はが なおこ/薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

Naoko Haga (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二 バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212

Hyogo Performing Arts Center

# Vaslav Nijinsky

~ Glory and setbacks ~

ワツラフ・ニジンスキー  
栄光と挫折



ワツラフ・ニジンスキー企画展出品リスト (作品・資料名/分類/年代/ほか)  
List of source "Special exhibition of Nijinsky"

- ◆コメディア・イリュストレ誌  
(雑誌/1912年7月15日号/[コメディア・イリュストレ]/コメディア・イリュストレ社)  
Comœdia Illustré / Paris, France / Comœdia Illustré / 1912.7.15 (Vol4-No18)  
Cover: relief of "L'Après midi d'un Faune" 31.5×25.1cm
- ◆ジョルジュ・バルビエによる「シェエラザード」デザイン  
(雑誌切り抜き [CL-019] / 1912~1920年頃 / ル・デコラシオン・ジュルナル誌)  
Clipping of Design of Schéhérazade by Barbier, George / 19? /  
Newspaper: Le Journal de la Décoration / 30.9×23.6 cm (CL-019)
- ◆オーギュスト・マック画、「ペトルーシュカ」舞台(印刷)  
(切り抜き [CL-024] / 1959年)  
Clipping of Painting of Petrouchka painted by Macke, August / 1959 / 26.9×19.1 cm (CL-024)
- ◆ニジンスキー、最期の写真と記事  
(切り抜き [CL-032] / 1950年8月1日/[パリ・マッチ]誌  
記事タイトル:ザルツブルグでのニジンスキー最期の写真)  
Clipping of Articles and photograph of Nijinsky / 1950.8.1 / Magazine Paris Match /  
Title: Les dernie + res photos de Nijinsky 35.6×13.4cm, 34.7×12.8cm (CL-032)
- ◆ローラ・ナイト画、「アルミードの館」舞台  
(雑誌切り抜き [CL-034] / 1917年3月)  
Clipping of Pavillion d'Armide by Knight, Laura / 1917.3 / 20.0×24.7 cm (CL-034)
- ◆「ペトルーシュカ」を踊るタマラ・カルサヴィナとワツラフ・ニジンスキー  
(切り抜き [CL-059] / 1913年?/[ザ・グラフィック]誌)  
Clipping of Design of T.Karsavina and V.Nijinsky in Petrouchka / 19?? /  
Magazine "The Graphic" / 24.7×35.0 cm
- ◆ニジンスキーについての写真と記事  
(切り抜き [CL-083] / 1950年/雑誌「タイムズ」、  
タイトル: The great Nijinsky dances again in a swiss insane asylum)  
Clipping of Photograph and Article of Nijinsky / 1950 / Magazine "TIMES": The great Nijinsky  
dances again in a swiss insane asylum / 35.6×26.6 cm (CL-083)
- ◆「ペトルーシュカ」コメディア・イリュストレ誌より  
(雑誌切り抜き [CL-118] / 1911年8月1日第3巻、19号/コメディア・イリュストレ社発行)  
Clipping of Petrouchka / 1911.8.1 Vol.3 No.3 / Magazine "Comœdia Illustré" / Published by  
Le Directeur Grant: M.De Brunoff, Imp. KAPP / Paris / 31.7×24.5 12p. (CL-118)
- ◆「午後の牧神」についての記事  
(切り抜き [SB-08-14-17] / 1912年6月20日/"ザ・スケッチ"誌)  
Clipping of "l'Après-Midi d'un Faune" / 1912.6.20 / Magazine "The Sketch" /  
35.9 × 25.0 cm (SB-08-14-17) 3-10p.
- ◆「ワツラフ・ニジンスキー」著者:ジャン・コクトー、ポール・イリブ  
(限定出版書籍 [AB-09] / 1910年代/ソシエテ ジェネラル ダンプレシオン社出版、フランス)  
Book, Vaslav Nijinsky  
Author: Cocteau, Jean, Iribe, Paul / Published by Société Générale d'Impression / France /  
1910's / (1000 copies limited version) / 31.0 × 30.4 cm (AB-09)
- ◆シェエラザード(バレエ・リュス)についての26のデッサン  
[Vinght-Six Dessins sur Schéhérazade(Ballet Russe)]  
著者:デュノワイエ・ド・スゴンザック(限定出版書籍 [AB-012] / 1910年代/  
ベル・エディション社出版、フランス)  
Book, Vingt-Six Dessins sur Schéhérazade (Ballet Russe)  
Author: A.D.Segonzac / Published by Belle Édition / France / c.1910's / 18.6 × 18.0 cm
- ◆「コメディア・イリュストレ」誌 第12巻、17号  
表紙:「レ・シルフィード」を踊るカルサヴィナとニジンスキー  
(雑誌 [MG-1033] / 1910年7月1日/コメディア・イリュストレ出版、パリ)  
(Magazine "Comœdia Illustré" Cover: Mlle Karsavina et M. Vaslav Nijinsky dans le Ballets in  
Les Sylphides / 1910.7.1 (vol.2-No.17) / Paris, France / 32.7×24.5 cm (MG-1033)
- ◆「ニジンスキーの手記」著者:ワツラフ・ニジンスキー、ソニア・スクーニン  
(書籍 [BK-0001-bio] / 1995年/アクト・シュッド出版、フランス)  
Book, Cahier Author: Nijinsky, Vaslav, Schoonejeans, Sonia / Published by Actes Sud/France /  
French (BK-0001-bio)
- ◆「ニジンスキーとその晩年」著者:ロモラ・ニジンスキー  
(書籍 [BK-0002-bio] / 1980年/サイモン&シュスター社出版、英国)  
Book, Nijinsky and his last years of Nijinsky Author: Nijinsky, Romola /  
1980 (First edition: 1933) / Published by Simon & Shuster / England / English (BK-02-bio)
- ◆「ニジンスキーとロモラ、Two Lives from Birth to Death indissolbly linked Tamara Nijinsky」  
著者:タマラ・ニジンスキー (書籍 [BK-03-bio] / 1991年/バックマン アンド ターナー出版、英国)  
Book, Nijinsky and Romola / Two Lives from Birth to Death indissolbly linked Tamara Nijinsky  
Author: Nijinsky, Tamara / 1991 / Published by Bachman & Turner / England / English (BK-03-bio)
- ◆「バレエ・リュス ニジンスキーの日記」著者:ワツラフ・ニジンスキー  
(書籍 [BK-0255-bio] / 1995年/テアトル出版、モスクワ)  
Book, Ballets Russes / diary of Nijinsky Author: Nijinsky, Vaslav / 1995 / Published by  
Artist,Lejisser,Teatr / Moscow / Russian (BK-0255-bio)
- ◆「アルミードの館」の「アルミードの奴隷を踊るワツラフ・ニジンスキーと「アルミード」を  
踊るアンナ・パヴロヴァ (プリント 手彩色 [AP-224] / 1909年/"テアトル"誌)  
M. Nijinsky, Watslav and Mlle Pavlova, Anna in Le Pavillon of Armide,  
Printed in color from the magazine "Theatre" / 1909 / 41.8 × 34.1 cm (AP-224)
- ◆「イリュストラシオン」誌よりニジンスキーの記事、  
記事タイトル:パリにおけるロシア舞踊 (切り抜き [CL-80] / 1909年5月22日号/フランス)  
Article and photograph of Nijinsky from L'Illustration  
33.9×25.9 / 1909.5.22. / Title: La Danse Russe a Paris
- ◆「春の祭典」を踊る4人のダンサー (写真 [PH-838])  
Four dancers from "Le Sacre du Printemps" / PH838

## ◆プロフィール◆

ワツラフ・フォミッチ・ニジンスキー(Nijinsky, Vaslav Fomich)  
ダンサー/振付家

1889年3月12日キエフ生まれ。

ダンサーの両親の元に次男として生まれ、1898年に帝室ロシア劇場付属  
バレエ学校に入学。卒業前にスター・バレリーナのパートナーに指名される  
など注目を集めた。1909年にバレエ・リュスに参加し、1911年よりバレエ・  
リュス専属ダンサーとなり、「生きながら伝説になった」『シェエラザード』  
『薔薇の精』『ペトルーシュカ』『牧神の午後』といった多彩な役を魅力的に演じた。  
振付家としての特異な才能を開花させ、その作品は賛否両論をよんだ。1913  
年巡業途中での突然のロモラとの結婚によってバレエ・リュスを解雇された。  
後に、一時期バレエ団を結成したが、あくまでもダンサーとして生きてきた彼  
にバレエ団の運営の荷は重すぎ、次第に精神を病んでいった。2度の戦争を生  
き延び、1950年4月8日ロンドンにて死去。

## ◆振付作品一覧◆

1912年5月29日 初演『牧神の午後』

音楽:クロード・ドビュッシー 美術・衣装:レオン・バクスト  
台本:マラルメの詩による(パリ、シャンゼリゼ劇場初演)

1913年5月15日 『遊戯』

音楽:クロード・ドビュッシー 美術・衣装:レオン・バクスト  
台本:ニジンスキー(パリ、シャンゼリゼ劇場初演)

1913年5月28日 『春の祭典』

音楽:イーゴリ・ストラヴィンスキー 美術・衣装:ニコライ・レーリヒ  
台本:レーリヒ、ストラヴィンスキー(パリ、シャンゼリゼ劇場)

1916年10月23日 『ティル・オイレンシュピーゲル』

音楽:リヒャルト・シュトラウス 美術・衣装:ロバート・エドモンド・ジョーンズ  
台本:シュトラウス (ニューヨーク、マンハッタン劇場)

その他上演されることはなかったが、プログラムには掲載された作品に  
『メフィスト・ワルツ』がある。

## ◆1913年からのあゆみ◆

1913年『遊戯』『春の祭典』を初演/8月30日ディアギレフが同行しなかった南米  
ツアーで突如ロモラ・ブルツキーと婚約し、9月10日に寄港先ブエノス・アイレス  
で結婚。婚報でそれを知った恋人ディアギレフは11月ニジンスキーを解雇。

1914年ロンドン・パレス劇場でニジンスキー主宰のバレエ団の公演を行う/6月  
18日娘キアラ誕生/第一次大戦勃発により、オーストリア=ハンガリーの戦争捕虜  
として、ブダペストに軟禁状態に置かれた。これも後の発病の原因と言われる。

1916年ディアギレフの奔走により、ロシアに帰国せずに米国ツアーに参加  
するという条件でニジンスキーら家族は解放され、4月ニューヨークでディアギレフ  
と再会を果たす/『ティル・オイレンシュピーゲル』初演。

1917年7月~9月第2回米国ツアーがニジンスキーを団長として行われる。  
/9月傷病兵のためにリサイタルで『レ・シルフィード』を踊ったのが最後の  
正気での舞台となる。

1918年統合失調症の症状が激しくなる。

1919年1月19日療養先のサン・モリッツのスヴェレッタ・ハウスで赤十字  
のための慈善公演としてショパンのピアノ曲に合わせて即興で踊ったダンス  
を披露。ニジンスキーはこれを「神との結婚」と呼んだ/1月19日~3月4日  
『ニジンスキーの手記』執筆。

1920年次女タマラが誕生。(タマラ・カルサヴィナにちなんで名づけられた)  
1928年ディアギレフの発案でかつてニジンスキーが当たり役とした『ペトルー  
シュカ』を見せたら正気を取り戻すのではないかと、パリ・オペラ座に席が用意され  
た。これがディアギレフとニジンスキーが並んで人前に姿を現した最後となった。  
1950年4月8日ロンドンで肝不全により死去。